

冬道翁歌集



上



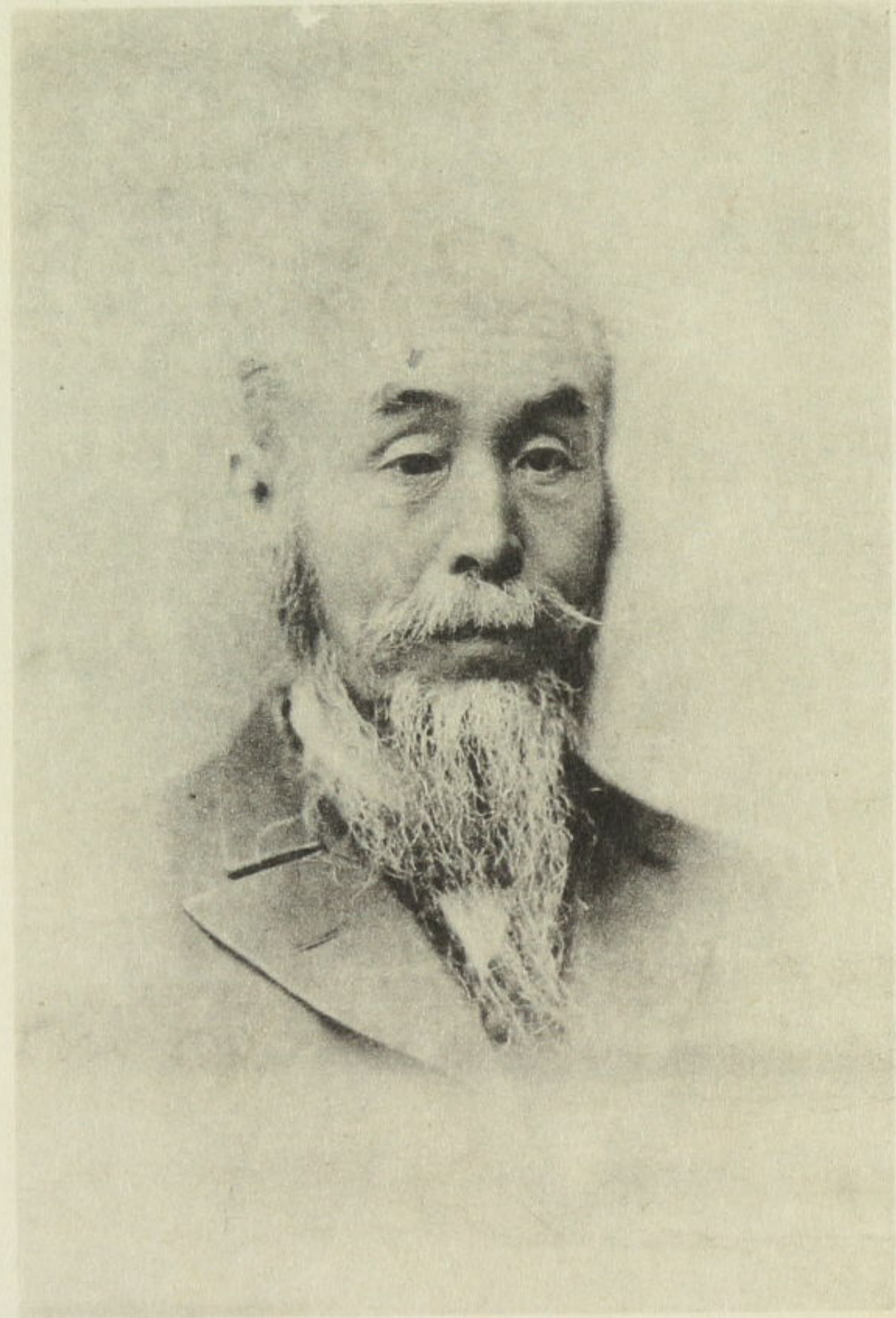
|        |
|--------|
| 特別     |
| イ 4    |
| 3163   |
| 46 (1) |

|   |
|---|
| 類 |
| 號 |
| 冊 |



貴  
14  
3163  
46(1)

14  
3







その四月貞士に擧ぐられ刑部官に在り二年  
ゆゑいふ東京の約章の事に當りそのみもは擧ぐ  
七月に大宮縣知事となり後とほり叙せられ  
續て名古屋縣知事となり元和島權令とい  
なり七月のころの事なり其の地もはら  
銀行の業にちりて成るに似たり神戶新町入  
あ十九年十月の事なり其の事なる題は  
物して叙めたり其の事なり其の事なり  
ふにその事なり其の事なり其の事なり

卓流の事なり其の事なり其の事なり  
なり其の事なり其の事なり其の事なり  
二十日めなり其の事なり其の事なり  
なり其の事なり其の事なり其の事なり  
昇叙せられ五位の位に叙せられ  
書家の事なり其の事なり其の事なり  
叙せられなり其の事なり其の事なり  
十なり其の事なり其の事なり其の事なり





冬道翁歌集上

むぎ十五の夜月のいづかたもいづかたも

前載のいづかたもいづかたもありきとて

妻の衣はうれ心き梅の花もほあつるふもよからしめり

古井村あつりにそそ芥をうみしりたること

冬も秋もつゆもふはらうすこと

きみさあはにのうらにさうそ芥せあつはとこ思ひ

若木梅

あつたよのこ年よははく梅の花もいづかたも思ひ



明公の山墓城をこゝにまつみなまらふ

梅のそけいふいふせは古のまゝをみまにこゝにまつ

梅感

春風をばらまわらぬ風はこゝに梅をこゝにまつ

春雨

朝ふけま柳たりふる日よまきれ日長く待つにふる

山家

月影のほろこゝにまは人のこゝにまつ

まはれ花をたのまき其花も成るま

家つとまなふたるまを我れを頼ま

人々歌ふみくを泊瀬山の花を

まはれまのまはれま山風をたのま柳をこゝ

あつ時鳥

まはれまのまはれまあつ時鳥をたのま

夕卯花

まはれまのまはれま夕卯花をたのま

雨中時鳥

まはれまのまはれま雨中時鳥をたのま

古郷橘

まはれまのまはれま古郷橘をたのま

立命

あはれなる世に身をたてしむるに教のこゝろかな

忠告

うしろ衣のこころをいかにせよ中にとほおぼせし

あやふ

ちよきよきまのこころのまのまのこころのまのまの

夢雨露

あやふきよきまのこころのまのまのこころのまのまの

尋時鳥

あはれなる世に身をたてしむるに教のこゝろかな

待時鳥

あはれなる世に身をたてしむるに教のこゝろかな

顕徳

あはれなる世に身をたてしむるに教のこゝろかな

彩舟

あはれなる世に身をたてしむるに教のこゝろかな

あはれなる世に身をたてしむるに教のこゝろかな

平日雨晴

あはれなる世に身をたてしむるに教のこゝろかな

水と雲

宇川の生花をくねりて言はせりてあつた

蜘蛛

けいけいといふく物もいとよきものになす

泉

ふらふらといふ水もけいけいといふ水もけいけいといふ水の  
いづれも井の清き水もけいけいといふ水もけいけいといふ水も

き坊恋

おとくもや難はわらふとておとくもや難はわらふとて  
とてほふ行の伏植のやり水いかりおとくもや難はわらふとて

蓮露

池水のまらすの浮葉をくらとてほふとてあつた

井

藤原のうたもつとてけいけいといふ水もけいけいといふ水も

新羅年恋

とて月夜中の社を祈るとてけいけいといふ水もけいけいといふ水も  
いづれも山もけいけいといふ水もけいけいといふ水も

ふらふらといふ水もけいけいといふ水もけいけいといふ水も

柳同賞

うらむとてあつた

不言恋

あつたはらばらばらな秋の風をうたへて

あつた

あつたはらばらばらな秋の風をうたへて

あつた

あつたはらばらばらな秋の風をうたへて

夏夜

あつたはらばらばらな秋の風をうたへて

野々萩秋風をうたへて

あつたはらばらばらな秋の風をうたへて

あつたはらばらばらな秋の風をうたへて

あつたはらばらばらな秋の風をうたへて

あつたはらばらばらな秋の風をうたへて

あつたはらばらばらな秋の風をうたへて

秋風

あつたはらばらばらな秋の風をうたへて

あつたはらばらばらな秋の風をうたへて

あつたはらばらばらな秋の風をうたへて

あつたはらばらばらな秋の風をうたへて

あつたはらばらばらな秋の風をうたへて

あつたはらばらばらな秋の風をうたへて

聖か

ちまーのいのちの花ゆかりの霞のよのけのけのけ

二海

よみすゝめは後たまたまは浅茅未だ花の霞  
霞の空にちまよきと見ゆるは花のゆかり

萩

我妹よかたしむらぬ花よかたしむらぬ花よ

あつたき

よみすゝめは後たまたまは浅茅未だ花の霞

刈草

よみすゝめは後たまたまは浅茅未だ花の霞

庭栽の花

ふみの面は花の霞をうらぐ花の霞をうらぐ

白地

ちまよはたよかたしむらぬ花よかたしむらぬ花

あつたき

よみすゝめは後たまたまは浅茅未だ花の霞

林田

ちまよはたよかたしむらぬ花よかたしむらぬ花

霜

朝の霜に茅屋の軒のおおとに桐の枝葉は霜より脆し

梅妻

いづれか梅の花の匂いはあつたかきぬけぬ

初雪

いづれか梅の花の匂いはあつたかきぬけぬ

あさ春

梅の花の匂いはあつたかきぬけぬ

第百廿二

いづれか梅の花の匂いはあつたかきぬけぬ

いづれか梅の花の匂いはあつたかきぬけぬ

いづれか梅の花の匂いはあつたかきぬけぬ

梅の花の匂いはあつたかきぬけぬ

いづれか梅の花の匂いはあつたかきぬけぬ

あさ春

いづれか梅の花の匂いはあつたかきぬけぬ

いづれか梅の花の匂いはあつたかきぬけぬ

いづれか梅の花の匂いはあつたかきぬけぬ

いづれか梅の花の匂いはあつたかきぬけぬ

いづれか梅の花の匂いはあつたかきぬけぬ

U

月  
The Gentle Shepherd's Song  
月

月夜の歌  
The Gentle Shepherd's Song  
月夜

月夜  
The Gentle Shepherd's Song  
月夜

おとよの長濱

おとよの長濱  
The Gentle Shepherd's Song  
おとよの長濱

おとよの長濱

おとよの長濱  
The Gentle Shepherd's Song  
おとよの長濱

おとよの長濱

おとよの長濱  
The Gentle Shepherd's Song  
おとよの長濱

見戀

恋書

あはれなる恋書に心を奪はれしは

あはれなる恋書に心を奪はれしは

古友舟

あはれなる恋書に心を奪はれしは

あはれ

あはれなる恋書に心を奪はれしは

あはれなる恋書に心を奪はれしは

あはれなる恋書に心を奪はれしは

あはれなる恋書に心を奪はれしは

あはれなる恋書に心を奪はれしは

あはれなる恋書に心を奪はれしは

あはれなる恋書に心を奪はれしは

あはれなる恋書に心を奪はれしは

あはれなる恋書に心を奪はれしは

あはれなる恋書に心を奪はれしは



葉の初まは也

葉の初まは也  
葉の初まは也  
葉の初まは也

葉の初まは也  
葉の初まは也  
葉の初まは也

葉の初まは也  
葉の初まは也  
葉の初まは也

葉の初まは也  
葉の初まは也  
葉の初まは也

葉の初まは也  
葉の初まは也  
葉の初まは也

葉の初まは也  
葉の初まは也  
葉の初まは也

葉の初まは也  
葉の初まは也  
葉の初まは也

葉の初まは也  
葉の初まは也  
葉の初まは也

葉の初まは也  
葉の初まは也  
葉の初まは也

葉の初まは也  
葉の初まは也  
葉の初まは也

U



月の夜

new moon and stars of night

冬夜

winter night and stars of night

雪

snow and stars of night

霧

fog and stars of night

水鳥

water birds and stars of night

山

mountains and stars of night

花

flowers and stars of night

子

children and stars of night

雲

clouds and stars of night

水田細流

water in the fields and stars of night

U

いんていふか〜はてはふ〜いんていふか〜

林野中

新雪のいんていふか〜はてはふ〜いんていふか〜

雪のいんていふか〜

雪のいんていふか〜はてはふ〜いんていふか〜

雪のいんていふか〜

雪のいんていふか〜はてはふ〜いんていふか〜

雪のいんていふか〜

雪のいんていふか〜はてはふ〜いんていふか〜

網代

いんていふか〜はてはふ〜いんていふか〜

須佐入江

いんていふか〜はてはふ〜いんていふか〜

夜寒里

いんていふか〜はてはふ〜いんていふか〜

除あふ

いんていふか〜はてはふ〜いんていふか〜

立春

いんていふか〜はてはふ〜いんていふか〜

未言



隔年忌

君と吾の中をくく流るゝいふ年月の子影くを

柔力たら野いゝのゝ

才さゝかまきまを所あうう枯野の原れ限るをい

こゝら

馬あさた一本のいさばしかりきそ吹く本枯の風

時雨

わらぬさうの道のいば葉いかにさあう時あはし

大雪城とれてさう浮雲はいまたまき冬にさうにさう

寄原三郎

ふのいぢわぬさのい毎葉はらるもの多ういづか

捨子

子成あつらのおまのあをにい思ふさういあつら

冬人仕事

わせいらまの衣成あつたのい短くいなるさうい

原上冬か

わらわのすまきなよそにさうま野うあれ冬あよあ

氷

そうねい袋の下はあゝいを那の氷しみすけりさう

おしすらさうたる氷の月影を結いさうさう氷が



らまもたむね板の成かゝるんぞ花の心もたむねの心もたむねの心

雪仙花

夕の雪白を結ぶ花の心もたむねの心もたむねの心もたむねの心

雪仙花

白雪の心のまに花の心もたむねの心もたむねの心もたむねの心

ちの雪の心もたむねの心もたむねの心もたむねの心もたむねの心

庄子

蝶や青くも蝶と入れたなを花の心もたむねの心もたむねの心

古松

少くも花の心もたむねの心もたむねの心もたむねの心もたむねの心

閑意

花の心もたむねの心もたむねの心もたむねの心もたむねの心

田家

小山田のいせの唐れ強し花の心もたむねの心もたむねの心

なまの心もたむねの心もたむねの心もたむねの心もたむねの心

寄琴意

花の心もたむねの心もたむねの心もたむねの心もたむねの心

見意

花の心もたむねの心もたむねの心もたむねの心もたむねの心

三才意



うき世の人のあはれにふりかへりて  
世の人を何れもあはれにふりかへりて  
はの國のなほにあらはれぬ  
人よけふらふまはらむ

歳暮

とほしくとけしあはれにふりかへりて

顕徳

いふまじきものいふにふりかへりて

鶯

いふまじきものいふにふりかへりて

むかしは日一慶あるにふりかへりて

あま

あまのものをけしあはれにふりかへりて

柳霧

うらつく柳、枝をさかすまを雨露のおつに

さる子

あまのものをけしあはれにふりかへりて

わのむら

あまのものをけしあはれにふりかへりて

さ

三つしたまはるゝいひはるゝ然りてよあまに能きあふとていひ

春雨

閑たつゝ少る春雨の音たるとあまの外乃然りてそり

寄日蓮

あふとていひはるゝいひはるゝ然りてよあまに能きあふとていひ

帰石

いひはるゝいひはるゝ然りてよあまに能きあふとていひ

春駒

いひはるゝいひはるゝ然りてよあまに能きあふとていひ  
降水了新しきとたる春駒いひはるゝ然りてよあまに能きあふとていひ

七云雀

今いひはるゝいひはるゝ然りてよあまに能きあふとていひ

清少納言屋をいひはるゝ

あふとていひはるゝいひはるゝ然りてよあまに能きあふとていひ

春朝

花をいひはるゝいひはるゝ然りてよあまに能きあふとていひ

尋花

あふとていひはるゝいひはるゝ然りてよあまに能きあふとていひ

曙花

あふとていひはるゝいひはるゝ然りてよあまに能きあふとていひ

夕花

ゆきよれをいづこふ海をえ静かのほく花の上の

相思花

いづこおちる力ある氣をいづこふ花をいづこふ

花集

忠とれをかきうふゆのまの目もいづこ限花をいづこ

古紙花

すまよき人をもいづこぬまぬ花をいづこ譲りふか

菊中花

桜をいづこばらまき入るいづこふかあるはをいづこら

静見花

うまきたていづきたつ花のほく静をいづこら

落花

いづこすにをいづこあまあゆらふのうらなはるあま

花楼

うまゆいのやらあゆらのまをいづこあまあゆら

水と花

はせりいづこあまあゆらふのうらなはるあま

山吹

あまあゆらあまあゆらふのうらなはるあま

新樹

なほのよれ程風はなまじく涼しからぬ

夏月

思ふにいらねにむねをなすは夏の日  
しはらしてそなへてはあつたに月を

夏州

夏もよけなき者とあつたに  
伊藤政施のつらきよき  
しなをいひて

君とよ玉野川の流るはちかたね

浄侶對月

はらひつらふのははきと西にと  
恨恋

うそをのこなるはあつたに  
國枝松平のつらきよき  
うまいたるはあつたに

夏の歌

いそひつらふはあつたに  
はらひつらふはあつたに

いふ

煩悩のちる車にのりてめぐりての河責はらむわが心

平日雨

ちかぢかぢか井の井田にのりておのれをまじくおのれを

月あ待た

ちかぢかぢか井の井田にのりておのれをまじくおのれを

ちかぢかぢか井の井田にのりておのれをまじくおのれを

いふ

ちかぢかぢか井の井田にのりておのれをまじくおのれを

ちかぢかぢか井の井田にのりておのれをまじくおのれを

戀

ちかぢかぢか井の井田にのりておのれをまじくおのれを

平日雨

ちかぢかぢか井の井田にのりておのれをまじくおのれを

いふ

ちかぢかぢか井の井田にのりておのれをまじくおのれを

ちかぢかぢか井の井田にのりておのれをまじくおのれを

ちかぢかぢか井の井田にのりておのれをまじくおのれを

ちかぢかぢか井の井田にのりておのれをまじくおのれを

ちかぢかぢか井の井田にのりておのれをまじくおのれを

の風と吹出高袖の招きうらむらむの  
るーるかふらなれ

樹陰泉

あまうらむのさむらひのさむらひ

卯夜

たのしみたふらねておのころのさむらひ

羈中三秋

らまのちのちのちのちのちのちのち

初秋

すまふの数ふらむらむらむらむらむら

七夕

ふもかも袖てふらふらふらふらふら

朝衫

さむらひの神あかたはははははははは

あま時

ちかたはははははははははははははは

菘

何まはははははははははははははは

薄

夕のちかたの原のむらむらむらむら

ほろまきよのうのち

ほろまきよはたまきよの家の柿のこまにからむね

連峰霞

神そのせのい重山五るまきよ春いんくのうまきよあや

若菜

相并みつる門田のせふらまきよきよれ裾やうしむいし妻

雉

おとらまらねまきよとらつしまきよのいん人まきよ

ねむ

何とそいひし祥せすらわにまきよるいん林まきよら

鳴

何とそいひまきよやうんまきよのう野のわいんまきよ

後羽

うらたのいひまきよとねのたまきよまきよらまきよら

おろ

まきよしまきよまきよはまきよはまきよまきよらまきよら

とねのまのいんまきよらまきよらまきよらまきよら

たのこ

たまきよまきよまきよまきよまきよまきよまきよ

鳥











1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100.

初巻

1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100.

原霞

1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100.

早春

1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100.

ちやまの垣根のまじ初まのうらけとてさるはこつ

春雪

ちるる梅の花ちりまはらめかいらうけを雪のうらけ

初春鶯

鶯いさるばるめ枝さるせうらるるよめ代とたりたれ

风光日新

ちるるれつむらぬ毎春の雪のうらけに唐くさるあやう

初春風

よのつらる麻のうらけにおきにらう進手れ城をけまの初風

滋養昔春

ちるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

春中書

ちるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

おあは春のうらけ加に殿よりさるるるるる

て輝るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

のつらり

ちるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

おあは

ちるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

竹書

かたはら風をきくもさかしの柳の影をみてもさかしの柳

新古今

さかしの柳の影をみてもさかしの柳の影をみてもさかしの柳  
さかしの柳の中はさかしの柳の影をみてもさかしの柳

夜梅

さかしの柳の影をみてもさかしの柳の影をみてもさかしの柳

閑意

さかしの柳の影をみてもさかしの柳の影をみてもさかしの柳

春雨

さかしの柳の枝はさかしの柳の影をみてもさかしの柳

雨中柳

さかしの柳の影をみてもさかしの柳の影をみてもさかしの柳

釣

さかしの柳の影をみてもさかしの柳の影をみてもさかしの柳

春月

さかしの柳の影をみてもさかしの柳の影をみてもさかしの柳

別恋

さかしの柳の影をみてもさかしの柳の影をみてもさかしの柳

恋心

さかしの柳の影をみてもさかしの柳の影をみてもさかしの柳

待花

まはるのちかき海京城中にちかきと覚束るこころを  
いかに

雨中待花

雨のちかき海京城中にちかきと覚束るこころを  
いかに

古寺

三子お徳佛の利益をいかにいかにいかにいかに

待花

まはるのちかき海京城中にちかきと覚束るこころを  
いかに

待花

まはるのちかき海京城中にちかきと覚束るこころを  
いかに

市

人々のちかき海京城中にちかきと覚束るこころを  
いかに

水で柳

よわれきたるなまきそにけりてはなほなほにゆきあはれし

柚

皇神の天をほにちりてけりてはなほにゆきあはれし

朝花

うららとよきそにけりてはなほにゆきあはれし

きを待望

むらふら使のせもそにけりてはなほにゆきあはれし

遠見の花

いかにけりてはなほにゆきあはれし

月前花

しつたる月夜にけりてはなほにゆきあはれし

雨中歌

梅をよけしそにけりてはなほにゆきあはれし

奥田常盤、伊勢の旅小娘のたむけ

歌ふし詞ふしそにけりてはなほにゆきあはれし

うららとよきそにけりてはなほにゆきあはれし

いかにけりてはなほにゆきあはれし

遠山霞

あかしの霞にけりてはなほにゆきあはれし



鶯の朝なくさきつらう限なくはく

しういほよおあきくう惜花か

ふ歌をよりむそよまくる序尔

うゑすのはなをえとゆふとほふもよまぬ

花妻友

たふふたうささかききふたむ友

浦花

ほのこかすめ浦のまやううらにけい

古寺花

山寺のなのみもさきふん

杜花

はらう花一本おきふ木の島はゆめ

園花

あまの人のさきにさきふ村を

松百花

くろくにさき松のさき

園をな花

たうらう人もあきくわゆる昔白妙に花ちゆに

花落客稀

ふさふさあちりぬまのきり



花のつぼみは

つぼみは花のつぼみは

朝衣

花のつぼみは花のつぼみは

玉

花のつぼみは花のつぼみは

首夏待時鳥

白梅のつぼみは

海老

花のつぼみは花のつぼみは

新樹風

夜山は花のつぼみは

隠窓

花のつぼみは花のつぼみは

牡丹花

花のつぼみは花のつぼみは

首夏水

花のつぼみは花のつぼみは

牡丹花

花のつぼみは花のつぼみは

まじりてあはれも ばらたのちいなる(あはれ)は  
あはれなるあはれなるあはれなるあはれなる  
あはれなるあはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなるあはれなる  
あはれなるあはれなるあはれなるあはれなる  
あはれなるあはれなるあはれなるあはれなる  
あはれなるあはれなるあはれなるあはれなる

奥山のふもよの雪、そらは都の花の陰ふなごるまに  
あはれなるあはれなるあはれなるあはれなる

二柱たのしみなる大あはれなるあはれなるあはれなる  
殿の前なるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなるあはれなる  
待時なる

あはれなるあはれなるあはれなるあはれなる  
あはれなるあはれなるあはれなるあはれなる

あはれなる

あはれなるあはれなるあはれなるあはれなる  
あはれなるあはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなるあはれなる

藤屋時鳥

わのつねの雲はのほろほろとちかちか

杜時鳥

くさくさに遠くをけしはまは林の枝もわたりてお鳴く

里村き

ほろほろとくさくさにけしはまは林の枝もわたりてお鳴く

岡時鳥

うしきよのふきはらのまはむらさきとあはれ

と春

大君の都の宮にいらまはあたらた

わまのほろほろとくさくさにけしはまは林の枝もわたりてお鳴く

えのま杜山

くさくさに遠くをけしはまは林の枝もわたりてお鳴く

あ菜

くさくさに遠くをけしはまは林の枝もわたりてお鳴く

あ菜

くさくさに遠くをけしはまは林の枝もわたりてお鳴く

あ菜

くさくさに遠くをけしはまは林の枝もわたりてお鳴く

首夏水

持うてはをさすおつし水の底にまわつて交はせしむ

山家元

たのしみ風のたつた葉のなを名のたすにあらせたりき  
あつたき

いそぎをさしきるまはりの文に書にあらせたりき

あはれ年のまかり十はる名ををさしき

本るふゆまをさしきこの歌とて

たゆむ舞うたふゆのたはるをさしき丸たを

さしきゆのたはるのたはるのたはるのたはるのたはる

はるのたはるのたはるのたはるのたはるのたはる

あつたき今にさしきあつたきあつたきあつたき  
あつたきあつたきあつたきあつたきあつたき  
あつたきあつたきあつたきあつたきあつたき  
あつたきあつたきあつたきあつたきあつたき

九月廿二日の歌

あつたきあつたきあつたきあつたきあつたき  
あつたきあつたきあつたきあつたきあつたき  
あつたきあつたきあつたきあつたきあつたき

二十

あつたきあつたきあつたきあつたきあつたき  
あつたきあつたきあつたきあつたきあつたき  
あつたきあつたきあつたきあつたきあつたき

下等船のりて上りてくるに於て其の可成りなるものありしを

三十一日

と云ふ事ありしに於て其の可成りなるものありしを

三十一日

と云ふ事ありしに於て其の可成りなるものありしを

三十一日

と云ふ事ありしに於て其の可成りなるものありしを

三十一日

と云ふ事ありしに於て其の可成りなるものありしを

二十九日

奥平の村より上りて其の可成りなるものありしを

三十一日

と云ふ事ありしに於て其の可成りなるものありしを

三十一日

と云ふ事ありしに於て其の可成りなるものありしを

十月十日の外の事ありしを

三十一日

と云ふ事ありしに於て其の可成りなるものありしを

三十一日

と云ふ事ありしに於て其の可成りなるものありしを





花洛雪

雪はあつそはるあの大も通りを舞となし

鷹狩

鷹狩のついでに山を歩くと雪がふりまわつて

西の山

西の山はあつそはるあの大も通りを舞となし

水鳥

水鳥はあつそはるあの大も通りを舞となし

の木の目には雪がふりまわつて

雪はあつそはるあの大も通りを舞となし



あはれなきあはれなきお花よあまの夜はうらやまな海人かみん

朝柳

あまの夜はうらやまな海人かみん

春雨

あまの夜はうらやまな海人かみん

お萩

あまの夜はうらやまな海人かみん

あまの夜はうらやまな海人かみん

あまの夜はうらやまな海人かみん

あまの夜はうらやまな海人かみん

あまの夜はうらやまな海人かみん

あまの夜はうらやまな海人かみん

あまの夜はうらやまな海人かみん

あまの夜はうらやまな海人かみん

あまの夜はうらやまな海人かみん

あまの夜はうらやまな海人かみん

あまの夜はうらやまな海人かみん

あまの夜はうらやまな海人かみん

あまの夜はうらやまな海人かみん

あまの夜はうらやまな海人かみん

曉花

つらねの月が光あきしくおぼしーらぬ花をこぼす

寄花祝

おまぬこよの春はまにまにさかす花のつらね

桃

少い出りのさうははの娘も縁人多く鳥羽の細道

落花

人こら来いとあらぬの中にもははさくちのつらね

雲雀

つらねとてははの上をこぼす花をこぼすつらね

恨恋

つらねとてははの上をこぼす花をこぼすつらね

見恋

つらねとてははの上をこぼす花をこぼすつらね

暮春

つらねとてははの上をこぼす花をこぼすつらね

江山春興多

つらねとてははの上をこぼす花をこぼすつらね

雪消春水来

つらねとてははの上をこぼす花をこぼすつらね

まきかきの中

まきかきの中

聖外駕

うらみはなほなほ

霞

うらみはなほなほ

夕雪

うらみはなほなほ

海邊霞

夕雪

鶯馴

うらみはなほなほ

おあ中雪

うらみはなほなほ

若菜

うらみはなほなほ

若菜

うらみはなほなほ

残雪





笑から人をもとむるやむに梅をばはるのよほふなれ

梅夜年香

そのまの梅の冬の終りゆくは梅の香のいづれを

夜梅

しるるそよよの香のいづれに梅の香のいづれを

おのゝ

年成りてあはれゆくは梅の香のいづれを

夕梅

うめをのいづれに梅の香のいづれを

あけ梅待人

あけ梅の香のいづれに梅の香のいづれを

おのゝ

いづれに梅の香のいづれに梅の香のいづれを

千早ゆきゆくは梅の香のいづれに梅の香のいづれを

久遠

うめをのいづれに梅の香のいづれに梅の香のいづれを

梅虫

人いづれに梅の香のいづれに梅の香のいづれを

雨巾着

梅の香のいづれに梅の香のいづれに梅の香のいづれを



Handwritten cursive text, likely a name or title.

招 花 女

Handwritten cursive text, likely a name or title.

出 著

Handwritten cursive text, likely a name or title.

思

Handwritten cursive text, likely a name or title.

海 存 花 字

Handwritten cursive text, likely a name or title.

難 忘 原

Handwritten cursive text, likely a name or title.

花 字

Handwritten cursive text, likely a name or title.

( 花 )

Handwritten cursive text, likely a name or title.

花 字

Handwritten cursive text, likely a name or title.

花 字

Handwritten cursive text, likely a name or title.

花 字

三枚

井の上の木の蔭葉をまきしつゝもまいたらぬはよの

サツ

ふんふんふんふんふんふんふんふんふんふんふんふんふん

ふん

ふんふんふんふんふんふんふんふんふんふんふんふん

枚

ふんふんふんふんふんふんふんふんふんふんふんふん

枚

ふんふんふんふんふんふんふんふんふんふんふんふん

三枚

ふんふんふんふんふんふんふんふんふんふんふんふん

一枚

ふんふんふんふんふんふんふんふんふんふんふんふん

一枚

ふんふんふんふんふんふんふんふんふんふんふんふん

一枚

ふんふんふんふんふんふんふんふんふんふんふんふん

一枚

ふんふんふんふんふんふんふんふんふんふんふんふん

秋曉

あけのけしきいづれもさかすまのけしき  
はねのけしきいづれもさかすまのけしき

あき(秋)凡

あきのけしきいづれもさかすまのけしき

鹿

あきのけしきいづれもさかすまのけしき

月あき

あきのけしきいづれもさかすまのけしき

夕月

あきのけしきいづれもさかすまのけしき

三日月

あきのけしきいづれもさかすまのけしき

あきのけしきいづれもさかすまのけしき

居待

あきのけしきいづれもさかすまのけしき

あき

あきのけしきいづれもさかすまのけしき

あきのけしきいづれもさかすまのけしき

月浮流石

流石のいよりの月のまよふ流石かゝる山のあまは

ねらむ

いよりのいよりのまよふ流石かゝる山のあまは

月影閑

いよりのいよりのまよふ流石かゝる山のあまは

月前存

いよりのいよりのまよふ流石かゝる山のあまは

高き谷のあまは

いよりのいよりのまよふ流石かゝる山のあまは

社頭月

三輪の山月の光と神とて老いる杉と松とせう吹く

16日

月影はあまのまよふ流石かゝる山のあまは

月影閑

いよりのいよりのまよふ流石かゝる山のあまは

月影

いよりのいよりのまよふ流石かゝる山のあまは

月影

いよりのいよりのまよふ流石かゝる山のあまは

朔時雨

きはしとていよりのはなつちのしづかに  
ふゆのふゆ

もろの葉のふゆのふゆのふゆのふゆのふゆ  
ふゆのふゆ

冬枯の山や人のまはらん木のふゆのふゆのふゆ  
閑落葉

きこも葉の指さしむかひのふゆのふゆのふゆ  
おおむね

杉のふゆのふゆのふゆのふゆのふゆのふゆ  
ふゆのふゆ

寒夜千鳥

三月のふゆのふゆのふゆのふゆのふゆのふゆ  
行路冬月

月をみよむかひのふゆのふゆのふゆのふゆのふゆ  
待雪

ふゆのふゆのふゆのふゆのふゆのふゆのふゆ  
初雪

おろよりみよむかひのふゆのふゆのふゆのふゆのふゆ  
野雪

おろよりみよむかひのふゆのふゆのふゆのふゆのふゆ  
ふゆのふゆ

待意

はるをばまゝに針動りかゝるともあはれなるにこそ言はれ給へ

川雷

しづかにとれる水の音にまゝおぼへるとも皆白くはの川水

田待意

しづかにおぼへるとも田のたりの為ともいふ針動り

山

大空にまゝなる山はあはれなる物まの何にもおぼへたり

しづかにおぼへるとも山はあはれなる物まの何にもおぼへたり

春田意

しづかにおぼへるとも山はあはれなる物まの何にもおぼへたり

後期意

おぼへるとも山はあはれなる物まの何にもおぼへたり

後期意

しづかにおぼへるとも山はあはれなる物まの何にもおぼへたり

しづかにおぼへるとも山はあはれなる物まの何にもおぼへたり

おぼへるとも山はあはれなる物まの何にもおぼへたり

山

しづかにおぼへるとも山はあはれなる物まの何にもおぼへたり

雪中意

らたのぬかいたりしりーまにんかゝる

のあゝのふた

あゝのふた

らたのぬかいたりしりーまにんかゝる  
あゝのふた

あゝのふた

らたのぬかいたりしりーまにんかゝる

あゝのふた

らたのぬかいたりしりーまにんかゝる

あゝのふた

らたのぬかいたりしりーまにんかゝる

あゝのふた

わやの池の山をせはくれと巖草の松花いり

杉松友

わやの池の山をせはくれと巖草の松花いり

羈中山

わやの池の山をせはくれと巖草の松花いり

神樂

わやの池の山をせはくれと巖草の松花いり

竹

わやの池の山をせはくれと巖草の松花いり

あゝのふた

くみぬると年ほらうれはらひらむ苦めさくさるふ  
うなひ

望遠帆

ききくおきの帆がぬらの文はこむにいらる

述懐

わがゆふ事のもらう多をれき心のうらむすほれを

社頭立春

みゆぬるきゆらき瑞植よをこ社代のま風を吹く

元日のふよある長歌二首

朝のよのふまをすれ大君のむ代あつ枝を下  
相ふ竹とらえり門とにまふふうちま街松

この常形つるはる榎林のねらる如く是らゆ  
むくぬ娘と物部のおこの男に麻袴麻肩衣を  
可ういふとらするまそ大室に鎌ありおこ  
のう駒のあふことおこにひらうし道のゆいふい美  
代をうたふはつわらうらひらういひむたをま  
なふまをまにひらうらゆふのこむれ者とたつ神に  
はるまをらひ百萬一はまりかま守神棚あつこのよ  
ろもまます後もちをまけけ代を我よゆつる糸  
うらうられ糸をまらうとてこむとくぬの縄をまわ  
しうたなむり海の濱ふとまむるあつ松を



こゝろはいたしむるにまよひてはら福よるまはら  
まよひてはらまよひてはらまよひてはら  
まよひてはらまよひてはらまよひてはら  
まよひてはらまよひてはらまよひてはら  
まよひてはらまよひてはらまよひてはら  
まよひてはらまよひてはらまよひてはら

其二

まよひてはらまよひてはらまよひてはら  
まよひてはらまよひてはらまよひてはら  
まよひてはらまよひてはらまよひてはら  
まよひてはらまよひてはらまよひてはら  
まよひてはらまよひてはらまよひてはら  
まよひてはらまよひてはらまよひてはら

まよひてはらまよひてはらまよひてはら  
まよひてはらまよひてはらまよひてはら  
まよひてはらまよひてはらまよひてはら  
まよひてはらまよひてはらまよひてはら  
まよひてはらまよひてはらまよひてはら  
まよひてはらまよひてはらまよひてはら

沼田正治の許よりおのりて  
秋そく人とおうせんとす

まよひてはらまよひてはらまよひてはら  
まよひてはらまよひてはらまよひてはら  
まよひてはらまよひてはらまよひてはら  
まよひてはらまよひてはらまよひてはら  
まよひてはらまよひてはらまよひてはら  
まよひてはらまよひてはらまよひてはら

阿多時

昔の中におもひしき思ひかへし事と何の事か  
あす傳ふれ七十の賀

神祇

まゝいひよとて神の志はかきとあはれなり  
神社

皇神乃宮れは康とてわが心ちよとそれ待  
旅泊

いの中はわが心ちよとてわが心ちよとそれ待

夕鷲

らかまのそ花よとてわが心ちよとそれ待  
風前竹

と社とのそ花よとてわが心ちよとそれ待  
田家

雛子

ほろこは夕のまゝとてわが心ちよとそれ待  
寄録二志

ちはやつら神のこゝろとてわが心ちよとそれ待

寄る恋

しきうだらうはしの言たりとてあましくも恋のつれなき  
梓ゆゑ末のふととてかみなまはて感のいとなまもふらあ

羈中望

青山のこもあまはるさあまのこもあまはるさあまはる

まき子短

彩子たのまきこりこりあまのあまのあまのあまのあまの  
いもあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの

海をよき月

津の國の波はのこもあまのあまのあまのあまのあまのあまの

おのこ

おのこあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの

蛙

蛙のこあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの

月前蛙

雨のこあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの  
なまのこあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの

雨のあま

あまのこあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの



照射

むらさきし木の下に霞がたむきにさしはるるあけのあまを  
はなを

かこ

きぬのこたまりたる松皮のむらさきの葉のあまを

蓮

きよきしとのさくら花はちかひさのむらさきの花を

ふり

さくらにさくら花のむらさきの花のむらさきの花のむらさきの花

約近

あけのあまをむらさきの花のむらさきの花のむらさきの花のむらさきの花

吾初ら

あけのあまをむらさきの花のむらさきの花のむらさきの花のむらさきの花

山家松

あけのあまをむらさきの花のむらさきの花のむらさきの花のむらさきの花

糸路力

あけのあまをむらさきの花のむらさきの花のむらさきの花のむらさきの花

雨巾笠

あけのあまをむらさきの花のむらさきの花のむらさきの花のむらさきの花

~~~~~

あけのあまをむらさきの花のむらさきの花のむらさきの花のむらさきの花



